

中央地区コミュニティ
まちづくり計画
(基本計画)
(2019年初版)



(中央地区、水城、四王寺山を望む)

中央地区コミュニティ
まちづくり計画策定委員会

目次

さいしょに 「みんなが笑顔で暮らす中央地区」を目指して	3ページ
◇ 計画の策定にあたって	3ページ
1 計画策定方針	3ページ
2 背景	3ページ

中央地区コミュニティまちづくり計画

I 中央地区の概要	4ページ
1 中央地区の地勢	4ページ
2 中央地区の将来人口（予想）	4ページ
3 中央地区の課題	5ページ
II 中央地区の将来像（目指す姿）	5ページ
III まちづくりの具体的計画（まちづくりの細部計画）	6ページ
1 地域づくり	
「こどもも 大人も あいさつでつなぐ 地域の円（わ）」	6ページ
2 子育て支援	
「育てよう 子どもたち 未来につなぐ 地域の円（わ）」	7ページ
3 安全・防犯・防災	
「安全安心 みんなでつくる 地域の円（わ）」	8ページ
4 福祉	
「おもいやり やさしさ あられる 地域の円（わ）」	8ページ
IV 今後のまちづくり計画	9ページ
計画策定参考資料	10ページ

さいしよに

「みんなが笑顔で暮らす中央地区」を目指して

◇ 計画の策定にあたって

1 計画策定方針

中央地区は「みんなが笑顔で暮らす中央地区」を合言葉に、第6次大野城市総合計画に沿って、今まで以上に人と人のつながりを大切にしたコミュニティによる「まちづくり」を推進します。

計画は、2019(平成31)年度を初年度に、10年後の2028年度を目標年度として「地域の目指すべき将来の姿」を実現するため、住民が自ら、課題解決や目標の共有化を図りつつ、地区コミュニティ主体による「まちづくり」を行うものです。

本計画は、公共事業等を伴うハード面を含む都市計画ではなく、コミュニティによるソフト面での「まちづくり」計画です。

今回策定した「中央地区コミュニティまちづくり計画」は、10年後の目標実現のための基本部分となる「前期基本計画」であり、向こう5年間を目途としたものです。

計画は、実施成果などの評価分析を行い、新たな事象・課題などにも柔軟に対応するため、適宜、計画の見直しを図りながら「まちづくり」を推進していきます。

2 背景

中央地区は、市の第5次大野城市総合計画（平成21年度から平成30年度）及びコミュニティ構想（人づくり・地域づくり編（平成20年度から平成28年度））に基づき、主に、現中央地区コミュニティ運営協議会の前身である中央地区コミュニティ協議会を核として中央地区の「まちづくり」を実施してまいりました。

平成28年度、市のコミュニティ構想が見直され、コミュニティ構想 Ver.2（みんなが主役のまちづくり編（平成29年度から平成35年度））が施行されました。これを受け、「まちづくり」の体制全般の見直しを行い、平成30年には「まちづくり」の核となる組織を「コミュニティ運営協議会」に改編して「まちづくり」を進めております。

平成31年度は、第5次大野城市総合計画の後期基本計画を受け継いだ第6次大野城市総合計画の開始年度にあたり、今までの「まちづくり」の成果を引継ぎながら、更なる課題解決に取り組んでまいります。

平成 31 年 5 月 吉日

中央地区コミュニティまちづくり策定委員会
委員長 藤田 實

中央地区コミュニティまちづくり計画

I 中央地区の概要

1 中央地区の地勢

大野城市は、福岡市の南東に位置し、その周囲は福岡市、春日市、那珂川市、太宰府市及び宇美町と隣接しています。その市域は東西約4km、南北約10kmの「ひょうたん」の様な形を成しており、ひょうたんの様なくびれ部の幅は約1kmしかありません。

中央地区は、大野城市の中ほどのこのくびれ部にあたり、北を県道112号福岡日田線、南を県道31号福岡筑紫野線にはさまれ、その中央部をJR九州鹿児島本線、西鉄天神大牟田線が走り、大野城市の主要駅である大野城駅、水城駅（JR線）、白木原駅、下大利駅（私鉄線）の4駅全ては中央地区内にあります。また、西鉄天神大牟田線の連続立体高架化事業は3年後の2021年度に完成予定となっており、高架化事業完了後は人と車の流れ、まちの姿も大きく変わる事が予想されます。

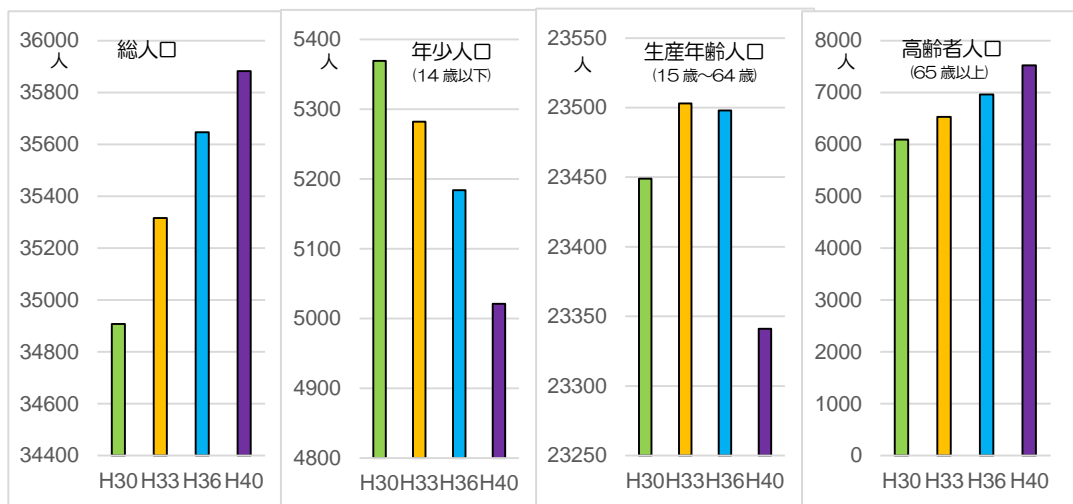
中央地区は、上大利、下大利、下大利団地、東大利、白木原及び瓦田の6行政区で構成され、区名の「大利」や「河原田（瓦田）」の名称は、室町時代の史料にも見られます。

特別史跡「水城」を擁し、歴史的な資源が多く残されています。

第二次大戦後は、席田（むしろだ）飛行場（現：福岡空港、旧：板付空港）を接收した米軍が、春日市から上大利にかけて、米軍基地（春日原ベース・白木原ベース）を置きました。当時のベースの東門から現在の西鉄白木原駅にかけての道は「ベース通り」と呼ばれ、昭和47年まで米軍人相手の商店が多数立ち並んでいました。

九州道太宰府ICにも近く、交通の利便性も良く、教育面では小学校3校、中学校2校、高等学校1校の他、商業面でも大型スーパーも近隣にあり、このような地域性により大型のマンションが次々と建設され、大野城市でも最も人口が増加している地域です。

2 中央地区の将来人口（予想）



平成30年から3年毎を横軸として人口推移を表したもので、左表より中央地区の「総人口」、「年少人口（14歳以下）」、「生産年齢人口（15~64歳）」、「高齢者人口（65歳以上）」の予想状況ですが、確実に「少子、高齢化」が進捗しています。

中央地区の総人口及び年齢区分人口表（細部）

（上段太字：中央地区、下段：市）

年度	人 口	年少人口 (14 歳以下)	生産年齢人口 (15～64 歳)	高齢者人口 (65 歳以上)
H30 (2018)	34,907 人 100,069 人 (34.9%)	5,369 人(15.4%) 15,795 人(15.8%)	23,449 人(67.2%) 63,294 人(63.2%)	6,089 人(17.4%) 20,980 人(21.0%)
H33 (2021)	35,316 人 101,003 人 (35.0%)	5,282 人(15.0%) 15,784 人(15.6%)	23,503 人(66.6%) 63,229 人(62.6%)	6,531 人(18.5%) 21,990 人(21.8%)
H36 (2024)	35,646 人 101,721 人 (35.0%)	5,184 人(14.5%) 15,647 人(15.4%)	23,498 人(65.9%) 63,165 人(62.1%)	6,964 人(19.5%) 22,909 人(22.5%)
H40 (2028)	35,882 人 102,103 人 (35.1%)	5,021 人(14.0%) 15,126 人(14.8%)	23,341 人(65.0%) 63,083 人(61.8%)	7,521 人(21.0%) 23,894 人(23.4%)
備 考	1 人口の割合は、市全体に対する中央地区の割合 2 年少・生産年齢・高齢者人口の割合は、地区・市全体それぞれの全体に対する割合			

(1) 中央地区は市全体の人口の35%程度の人口が集中しています。

(2) 市全体の高齢化率の上昇よりもゆるやかではあるが、高齢化が進むと予想されます。

3 中央地区の課題

旧中央地区コミュニティ協議会が平成26年、平成28年に実施した「パートナーシップのまちづくり市民アンケート」調査結果及び「第6次大野城市総合計画まちの未来シンポジウムのアンケート」調査結果を分析し大別すると以下の課題があります。

- ・ 地域づくり（担い手づくり・住民間の交流・外国人対応・ゴミの出し方など）
- ・ 子育て支援・青少年育成（居場所作り・情報発信・環境整備など）
- ・ 安全安心対策（ネットワーク作り・防犯パトロール・安全部会活動など）
- ・ 福祉対策（高齢者の居場所作り・独居世帯への支援・環境整備など）

II 中央地区の将来像（目指す姿）

健全で元気なまちをつかっていくためには、地域コミュニティを支える住民、企業、行政などが力を合わせ、自発的に様々な地域課題の解決に取り組んでいくことが肝要です。

住民同士が互いに支え合う「地域の絆」を再構築し、地域コミュニティの活性化を図るため、多くの皆さんがコミュニティ活動に興味を持って、参加して頂き、地域に特化した活動を推進していく必要があります。

「^{えがお}みんなが笑顔で暮らす^く中央地区^{ちゅうおうちく}」をスローガンに「まちづくり」を行うため、コミュニティ活動の核となるリーダー育成、共働体づくりを推進し、市と連携して地域コミュニティの活性化に取り組んでいきます。

サブスローガンとして以下を掲げ、「まちづくり」を推進していきます。

(1) 地域づくり 「子どもも 大人も あいさつでつなぐ 地域の円（わ）」

人と人の良好な関係なくしてはコミュニティの構築は成り立ちません。人と人の繋がりは会釈、あいさつが基本です。 まちの人々が笑顔であいさつを交わし、中央地区に住んでいる事に意義が見出せる地域づくりを進めます。

(2) 子育て支援 「育てよう 子どもたち 未来につなぐ 地域の円(わ)」

子どもは明日の担い手、将来の夢を託す存在です。地域の皆が手と手を繋ぎ、子どもを育てる環境づくりを進めます。

(3) 安全・防犯・防災 「安全安心 みんなでつくる 地域の円(わ)」

地域の人々が希求するのは、安全、安心に暮らせるまちです。地域の皆で安全・安心に暮らせる「まちづくり」を進めます。

(4) 福祉 「おもしろい やさしさ あられる 地域の円(わ)」

子どもから高齢者まで、皆がすべて幸福に暮らす権利を保有しております。地域のみんなでおもしろいとやさしさをもって人と人同士が支えあって暮らすことができる「まちづくり」を進めます。

※ 円(わ)の意は、昭和42年、大野城市が前身である大野町であったころ、人口の流入が激しくなり、人間関係がおろそかになるなか、みんな円(まどか)な心でお互いの人間関係を進展させようとの提唱で始まった「まどか運動」に由来し、コミュニティ作りに不可欠な地域の人々の和、人と人の繋がりの輪を表現するものです。

Ⅲ まちづくり細部計画

1 現在継続して実施中の施策の他、新規に開始する施策など

(1) 地域づくり

- ・自分の住んでいるまちの歴史起し活動

(2) 子育て支援

- ・共稼ぎ世帯の子どもの見守り活動

(3) 防 災

- ・自助、共助による命を助ける行動が迅速に行える基礎的な知識を普及する活動
- ・台風、大雨、地震などの防災に係わる知識、避難情報などの活用法などを記載したリーフレットの配布と地区に特化したハザードマップの作成と配布活動(全戸配布)

2 具体的計画

(1) 地域づくり

「子どもも 大人も あいさつでつなぐ 地域の円(わ)」

項目	施策	実施内容	時期	備考
心地良い人間関係づくり	地域の皆が「おはよう」「こんにちは」などのあいさつを気軽に交わす明るいまち、心地よい人間関係づくりを目指します。	◇ 地区住民による「あいさつ運動」を進めます。 ◇ 小・中学生による「あいさつ運動」を進めます。	31年度開始	

人と人が親密になる交流の場作り	地域などで実施する各種行事、催しものなどを通じて、地域住民の繋がりを広げます。	◇ 地域の方々が気軽に、自由に参加できる催しものを実施して行きます。 ☆ MADOKA れくスポ祭 ☆ 文化フェスティバル ☆ 各地区の盆踊り、夏祭り、七夕まつりなど ◇ 地域清掃活動などの諸活動を通じて隣近所の良好な互助関係作りに役立てます。	継続	
地域の担い手づくり	地区の催事・伝統行事などを通じて明日の担い手づくりを行います。			
隣近所間の良好な関係づくり	隣近所による声かけ、助け合いの共助体制を更に深め、それらが広がり繋がっていく事を目指します。			
自分の住んでいるまちの歴史起し	地域の人が自分の住んでいるまちの歴史を理解することにより「ふるさと」への愛着心の育成とその地に住んでいることを誇れる意識の高揚を図ります。	◇ 古者からの聴取り、資料の提供などを通じた「まちの歴史」起しを行います。 ◇ 地名、遺物、神社、石碑、道祖神などの史実、由来などの調査活動を通じて得たものの資料編さん、保存、広報活動を行います。	〈新規〉 31年度 後半以降 開始予定	

(2) 子育て支援

「育てよう 子どもたち 未来につなぐ 地域の円(わ)」

項目	施策	実施内容	時期	備考
未就学児を抱える保護者の支援	初めての子育て、経験不足などの境遇を同じくする人々との交流の場を設け不安、問題の軽減、解消に役立てるなどの子育て支援活動を行います。	◇ 公的助成金制度、色々な相談対応窓口などのご案内、紹介をします。 ◇ お母さん達の交流の場を設けます。 ◇ 子どもさんの遊びの場を提供します。	〈新規〉 継続 通年	
児童の遊び場などの提供	放課後の小学生に対する遊びの場、勉強の場を提供し、協調性の育成、道徳心を育み、創造性を伸ばす支援活動を行います。	◇ 遊び場を提供します。 ☆ アンビシャス広場 ◇ 勉強の場を提供します。 ☆ コミュニティセンター ☆ 一部の公民館	継続 通年(土、日、祭日を除く。)	
子どもたちの育成対策	将来を担う世代を育成するため、各種活動に参加できる機会を作り協調性、奉仕精神を育み、コミュニティの担い手育成に努めます。(中学生以上には、企画・運営に参加する機会を設け、育成を進めます。)	◇ 地区の各種行事、催しに参加する機会を設けて育成します。 ☆ 夏祭り、餅つき、レクリエーション活動、一斉清掃 ☆ コミュニティ活動への参加など ☆ アンビシャス広場支援など ☆ こども会行事支援など	継続 都度 一部新規	
共稼ぎ世帯の子ども見守り	放課後、保護者帰宅までの間、放課後子供教室などを利用していない子どもさんの居場所作りと見守りを目的とします。	◇ 主として17時～19時の間の居場所作りを予定します。	〈新規〉 32年度 開始予定	

(3) 安全・防犯・防災
「安全安心 みんなでつくる 地域の円(わ)」

項目	施策	実施内容	時期	備考
安全・防犯	登下校時の子ども達を交通事故と犯罪から守る活動に合わせて地域の人々の安全を守る活動を行います。	◇ 主に児童の登下校時に児童の見守り活動を行います。	継続 31年度 一部新規 開始	
	まちにゴミなどが散乱している状態を放って置くと、人々の心がすさみ、その次には争い事、犯罪などが増加する事象を早期に排除し、住みやすい街の維持に努めます。	◇ まちピカ運動などの推進によりゴミ、タバコ吸殻、ペットボトル類などの一掃、落書き消しなどを進め、明るくきれいなまちの維持に努めます。	継続 31年度一 部新規開 始	
	犯罪をしない、させないを合言葉とした活動を進め、安全・安心なまちの維持を図ります。	◇ 青色パトロールカーによる地区パトロールを継続して実施し、地域の人々の安全と犯罪の防止を図ります。 ◇ 防犯パトロールを継続して実施し、青少年の非行防止、その他の犯罪の抑止効果の向上を図ります。	継続	
防 災	自助・共助による命を助ける行動が迅速に行える知識の普及を推進します。	◇ 防災訓練などを活用した普及教育などを行う事を予定します。	〈新規〉 32年度 開始	
	台風、大雨、地震などに係る防災知識、避難情報の活用法と危険回避に使用できるハザードマップ(被害予測地図)の整備を進めます。	◇ 台風、大雨、地震などに係る知識、避難情報などの活用法リーフレット、地区に特化したハザードマップの作成と配布を予定します。	〈新規〉 31年度 資料収集 編さん	

(4) 福祉
「おもいやり やさしさ あられる 地域の円(わ)」

項目	施策	実施内容	時期	備考
支援希望者に対する対応	支援希望者が気軽に相談ができる態勢を整備していきます。	◇ 相談や要望がし易い窓口の広がりを進めます。 ◇ コミュニティセンター、公民館などに相談先案内のパンフレット類を備えます。 ◇ 上記のパンフレット類が上記場所に備わっている事の周知を図ります。	継続	
高齢者対策	高齢者の居場所づくり・見守りの充実化を進めます。	◇ 高齢者、要配慮者の買い物支援、生活手助けなどを継続して実施します。	継続	
	一人暮らしの方の社会的な孤立化を防ぎ、地域に溶け込みやすい集いの場づくりを継続して行います。	◇ 番茶の会、敬老会、地区のミニデイ、レクリエーションの場を通じて疎外感の防止、生きがい感が持てる様に継続して実施します。	継続	

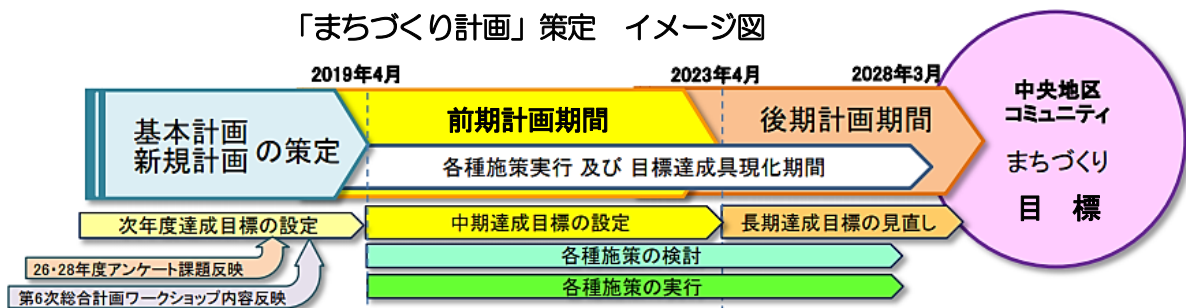
	健康寿命を延ばす取り組みを進めます。	◇ 足元気教室、ロコモ体操、音楽サロンなどを通じて身体を動かす事、人とのふれあいによる生きがい感を高める場づくりを進めます。	継続	
	認知症を防止するための声掛け運動を進めます。	◇ 高齢者には、やさしい気持ちで、根気強く、声かけをする。また、相談などの話相手になれる活動を進めていきます。	随時	

IV 今後のまちづくり計画

項目	内容	年度				
		2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)
地域づくり	自分の住んでいるまちの歴史起し	☆	→	→	→	→
	まちの歴史の広報、情報発信、ホームページ掲載など				☆	→
子育て支援	共稼ぎ世帯の子どもの見守り		☆	→	→	→
防災	避難や助け合い法の知識普及活動など		☆	→	→	→
	台風などの防災知識の普及活動など			☆	→	→

上表は、当面の計画を下図は、まちづくり計画のイメージを表しています。

計画策定方針にも記述しておりますが、計画は、実施成果などの評価分析を行い、新たな事象・課題などにも柔軟に対応するため、適宜、計画の見直しを図りながら「まちづくり」を推進していきます。



計画策定参考資料（順不動）

- 1 第6次 大野城市総合計画 基本構想（案）
- 2 第6次 大野城市総合計画 まちの未来シンポジウム報告書（平成30年5月）
- 3 大野城市 第11回「まちの姿アンケート」調査結果（平成30年8月）
- 4 30年「まちの未来ワークショップ」実施結果
- 5 中央地区コミュニティ協議会 中央地区地域課題分類表の見直しについて（平成29年1月）
- 6 平成28年度「中央地区の地域課題」見直しにおける中間報告
- 7 平成28年・26年度 中央地区地域課題分類一覧表 NPO 法人共働のまち大野城中央コミ
- 8 福岡県地域コミュニティ活性化市町村担当職員研修会資料（平成30年10月）
- 9 生活支援体制整備事業について（平成30年8月）
- 10 大野城市「夢とみらいの子どもプランⅡ」（2014～2018）

その他

- 1 大野城市 暮らしのもやい帳 ～住み慣れた地域で支えあい、安心して暮らせる共働のまちづくり～
地域包括支援センター、社会福祉協議会（平成30年9月）版
- 2 おおのじょう子育てサポートブック(妊娠中～就学前のお子さんをお持ちの方へ)(平成30年度版)